［研究ノート］

現代チェコ語における指小形容詞に関する研究

武藤沙英子

1. はじめに

現代チェコ語には、生産的な指小接尾辞が豊かに存在し、特に話し言葉の中で一つの有力な語形成の手段として頻繁に用いられている。語彙カテゴリー (lexical category) 別にみると、チェコ語において指小辞によって最も頻度が高く派生されるのは名詞である。指小形容詞は指小名詞と比べてより出現頻度は低い。これはチェコ語やその他のスラヴ諸語だけではなく、Nieuwenhuis(1985: 223) で提唱されている「指小語階層」から考えれば、「指小」表現のカテゴリーを持つ言語には普遍的な傾向であると言えよう[1]。しかし、名詞に対するほど生産性が高くなくとも、指小形容詞は確実に存在しており、チェコ語を特色づける機能としてひとつの役割を担っているといえるのではないだろうか。本稿は、チェコ語の指小形容詞について考究することが目的である。また、参考までにチェコ語の指小名詞についてもその概略に触れておく。書かれたテキストをベースとした現代チェコ語コーパス SYN2010: Český národní korpus を用いて指小形容詞サンプルを収集し、また、それらに分析・考察を加えた。

2.「指小語」とは何か

亀井 et al. (1996: 638)「指小辞」の項目及び Dressler and Barbaresi(1994: 92-93) らを参考に、本稿で取り扱う「指小語」の特徴について以下のように定義する。

①（上記 2 件の参考文献記述に共通していたものより）

指小語とは、指小辞によって派生された口語的な語彙である。元となった語彙と比較して指し示すものが「小さく」なり、原則として肯定的な情動的意味合い（「親愛」「愛情」「丁寧」など）および否定的な感情（「軽蔑」「皮肉」「嫌悪」など）を持つ。

②また、指小語は名詞だけではなくその他の語彙カテゴリーの語彙からも派生される。ただし、Nieuwenhuis(1985: 223) の提唱した「指小語階層」によれば派生の可能性の高さには語彙カテゴリーによって差がある。

③ Dressler and Barbaresi (1994) より（明確に述べられてはいないが、他の 2 件（Nieuwenhuis 及び亀井）の記述において例として示された語彙にその特徴を読み取ることができる）、派生の過程で音変化が起こりうる (例：dům「家」> domek, ruka「手」> ručička「時計の針」)。

3. チェコ語の指小名詞

引き続き、特にチェコ語の指小名詞について簡単に記述する。2 節で述べた指小語の特徴に付け加えるべき点をあげると、指小辞はすべての性（3 性：男性、女性、中性）の名詞に付加することができる、そして多くの場合、さらに拡張した接尾辞によって強調することができるという点である[2]。また、ruka「手」> ručička「時計の針」のように語彙化する指小名詞も少なくない（これらの特徴について詳しくは Čechová(2003: 126) を参照）[3]。また、後の節にて指小形容詞と比較させるべく、指小名詞の接尾辞、音交替、機能について見ていく。

3.1. 指小名詞を派生させる接尾辞と音交替

チェコ語の指小名詞について、Karlík(1995: 125-128) にて取り上げられた接尾辞及び派生に伴う音交替について紹介する。

代表的な指小名詞の接尾辞は、第一次接尾辞（男性：-ek, -ík, 女性：-ka, 中性：-ko, -átko)、さらに第二次接尾辞（男性：-eček, -íček, 女性：-ečka, -íčka, 中性：-ečko//-éčko, -ičko//-íčko, -inko など）などが挙げられる。第二次接尾辞が付加されると第一次接尾辞と比べてしばしば物質的サイズや度合いなどが更に小さくなったり、情動的な意味合いが強まったりする。接尾辞には様々なヴァリアントがあり、組み合わせて用いられることもある。

それぞれの接尾辞と起こりうる音交替について具体的に見ていく。母音、子音についてそれぞれ次の表にまとめた。母音については不規則に短母音化するか、あるいは oheň「炎」> ohýnek の e > ý や、slovo「語」> slůvko のように変則的な交替が発生する。

表 1　指小名詞　音交替

	音交替　例	音交替　語彙例
子音	h > ž	kniha「本」> knížka
	ch > š	prach「埃」> prášek「粉、薬」
	k > č c > č	balík「小包」> balíček kopec「丘」> kopeček
	ň > n	oheň「炎」> ohýnek
	r > ř	bratr「兄弟」> bratřík

母音	a > á á > a	prach「埃」> prášek「粉薬」 máma「お母さん」> mamka
	e > í	pec「オーヴン」> pícka
	e > ý	oheň「炎」> ohýnek
	í > i i > í	chvíle「瞬間」> chvilka kniha「本」> knížka「小冊子」
	o > ů	slovo「語」> slůvko
	u > ou	kus「一片」> kousek
	ů > o	stůl「机」> stolek
	y > ý	kýbl「バケツ」> kyblík

3.2. 機能

Štícha (1978) は指小名詞の機能を 1) 物質的な表現、2) 情動的な表現、3) 命名機能 (lexikalizování) の 3 つに分類した。指小名詞はこれら 3 つのいずれか、または文脈によっては 1) 及び 2) を組み合わせた性質を帯びて登場すると考えられる。

指小辞を付加することで、物質的な面で指小化すると、指小名詞は元の名詞に対して寸法や度合い、性質・程度が軽量化・縮小する（例：pták「鳥」> ptáček「小鳥」、mozek「脳」> mozeček「小脳」など）。チェコ語では、拡張された接尾辞が付加すると、原則としてさらにその指小性は高まる[4]。

3.3. 使用傾向

亀井 (1996: 638) の記述で「指小辞は、口語や俗語で、愛らしさの強調や、愛着や親密さ、またはその逆に軽蔑や侮辱などの情緒的表現として用いる場合が多く、多数の言語にその例がある」とあることから、指小名詞は公的な場よりも日常の会話の中で使われることが想定される。また、Čmejrková(2011: 85) では「称賛、評価的な認識、肯定的な評価の表現手段」としての指小名詞がポライトネスの手段の一つとして紹介されている。

(1)

A	*všechny*	*moje*	*nejskvělejší*
and	all	my	best. SUPER. PL.
věc-ičky		*jsou*	*uvnitř:*
thing-DIM. F. PL. ACC.		are	inside

「そしてすべてのわたしの素晴らしい物の数々が中にある」

(2)

Jen	*si*	*pojďte*	*dát*	*dobré*
Just	REFL	go. IMPF. IMP. 2PL.	get. PFV. INF.	good. N. ACC.
chlazené	*pivečko*.			
chilled. N. ACC	beer. DIM. N. SG.			

「ただよく冷えた美味しいビールを飲みにおいでなさい。」

(1) は věc「物」に対する話者の肯定的な評価、(2) は誘う際に聞き手に対して丁寧さや親密さを表現したい話者の欲求が表れている。

以上のチェコ語の指小名詞の特徴を踏まえつつ、指小形容詞について考察していきたい。

4. 指小形容詞を派生させる接尾辞

指小形容詞の接尾辞の認定には Bartáková(1994) を参考にした。形容詞の意味を拡張させる接辞について、スロヴァキア語、チェコ語双方の例を数多く示している。その中から本稿と関連の深いチェコ語の形容詞の指小接尾辞のみを取り上げ、著者の表した図を以下のとおり表の形式に整頓した。

表 2　チェコ語の形容詞に付く指小接尾辞

第一段階接尾辞	第二段階接尾辞
-oučký	
-ounký	-oulinký -ouninký
-ičký	-ičičký -iličký -ičkatý
-inký	-ininký -ilinký
-ýnký	

（Bartáková(1994: 86) より）

表の左列が第一段階接尾辞、右列がその第一段階の接尾辞からさらに指小性が深まって派生される際に語幹に付加される拡張的な接尾辞、第二段階接尾辞である。

3.1 で取り上げた指小名詞と比較すると、指小形容詞の接尾辞も種類が多様である。また、例えば接尾辞 -ounký には第二段階目の接尾辞 -oulinký, -ouninký が存在しており、このように拡張的な接尾辞が存在するという点で指小形容詞は指小名詞に類似し

ている。接尾辞が付加される際に発生する音交替についてはコーパスからの指小形容詞の抽出で実際に得られたサンプルを元に 5.2 で述べる。

5. 指小形容詞　抽出

チェコ語の指小名詞については Klímová(2001: 6) において出現頻度の高いものが一覧表としてデータが出ているが、指小形容詞については文法書や指小形容詞を取り扱った論文であっても、数例の語彙が示されるに留まっている。そこで、前述の形容詞の指小辞を用いてチェコ語コーパス SYN2010: Český národní korpus から指小形容詞の一定量のサンプルを作成するにいたった。

5.1. 得られた指小形容詞のサンプル

チェコ語コーパス SYN2010: Český národní korpus サイト内におけるプログラム Morfio（形態素単位での検索が可能）を利用して、前述のチェコ語の指小形容詞の接尾辞を形態素検索にかけた。その結果、合計 57 種類の形容詞から 96 種類の指小形容詞が得られた。接尾辞は異なっているが、派生の元となった語彙は共通するものが多かったため、見やすさを考慮し、派生元の形容詞語彙を中心にして以下のように表にまとめた。訳語は筆者が任意で行ったものだが、文脈によっては異なる訳の方が適切である可能性があることをここに予め断っておく。

表 3　指小形容詞サンプル

	元の形容詞 (出現件数)	派生した指小形容詞 (出現件数)
1	bílý(29744)「白い」	běloučký(15) bělounký(12)
2	blbý(1526)「愚かな」	blboučký(3)
3	bledý(2836)「青ざめた」	bleďoučký(9) bleďounký(4)
4	blízký(18039)「近い」	blizoučký(2)
5	celý(133361)「全ての」	celičký(66)
6	červený(15177)「赤い」	červeňoučký(2)
7	čistý(12693)「清潔な」	čisťoučký(12) čisťounký(72)
8	drobný(10803)「細かい」	droboučký(171) drobounký(272) droboulinký(9)
9	hebký(586)「なめらかな」	heboučký(22) hebounký(31)
10	hezký(9661)「かわらしい」	hezoučký(53) hezounký(46)

11	hladký(3863)「滑々の」	hlaďoučký(14) hlaďounký(19)
12	hloupý(4023)「お馬鹿な」	hloupoučký(49)
13	hodný(5371)「愚かしい」	hodňoučký(5)
14	hubený(2324)「痩せた」	hubeňoučký(20)
15	chabý(657)「脆弱な」	chaboučký(4)
16	chudý(5930)「貧しい」	chudičký(71)
17	jediný(47751)「唯一の」	jedinký(5)
18	jednoduchý(16996)「簡単な」	jednoduchoučký(4)
19	jemný(6659)「やわらかな」	jemňoučký(28) jemňounký(22)
20	krátký(18859)「短い」	kraťoučký(31) kraťounký(9) kratičký(543) kratinký(25)
21	křehký(2293)「脆い」	křehoučký(38) křehounký(12)
22	kulatý(2930)「丸い」	kulaťoučký(69)
23	lehký(9563)「軽い」	lehoučký(108) lehounký(190) lehoulinký(8) lehýnký(2)
24	malý(89884)「小さい」	maličký(1988) maličkatý(13) malinký(705) malilinký(11) malinkatý(166) malilinkatý(14)
25	měkký(4427)「柔らかい」	měkoučký(57) měkounký(15)
26	milý(7905)「親愛なる」	miloučký(47) milounký(5)
27	mírný(4983)「穏やかな」	mírňoučký(4)
28	mladý(50557)「若い」	mlaďoučký(10) mlaďounký(18) mladičký(594) mladinký(56)
29	mrňavý(464)「かすかな」	mrňavoučký(9)
30	naivní(1632)「ナイーヴな」	naivňoučký(2)
31	nevinný(2734)「罪のない」	neviňoučký(11)
32	něžný(1823)「慈悲深い」	něžňoučký(3)
33	nízký(22868)「低い」	nizoučký(30) nizounký(9)

34	pěkný(8878)「美しい」	pěkňoučký(7)
35	pilný(646)「勤勉な」	plničký(8)
36	pitomý(1461)「阿呆な」	pitomoučký(12)
37	pomalý(3738)「ゆっくりの」	pomaloučký(4)
38	prostý(5781)「単なる」	prostičký(3) prostinký(77)
39	růžový(5340)「ピンク色の」	růžovoučký(35)
40	řídký(1429)「薄い」	řiďoučký(3) řiďounký(9)
41	samotný(15566)「独立した」	samotinký(24)
42	skromný(2385)「控えめな」	skromňoučký(2)
43	slabý(9294)「弱々しい」	slaboučký(147) slabounký(102) slaboulinký(5)
44	sladký(4574)「甘い」	slaďoučký(36) slaďounký(25)
45	starý(74638)「年老いた」	stařičký(411)
46	světlý(4114)「明るい」	světlounký(18)
47	štíhlý(2899)「細身の」	štíhlounký(17)
48	tenký(4322)「細い」	tenoučký(146) tenounký(123) teninký(15) tenoulinký(5)
49	teplý(8002)「あたたかい」	teploučký(28) teplounký(6)
50	tichý(7701)「静かな」	tichoučký(22) tichounký(70)
51	tlustý(5412)「太い」	tlusťoučký(18)
52	ubohý(2666)「哀れな」	ubohoučký(31)
53	útlý(925)「スリムな」	útlounký(6)
54	úzký(9110)「狭い」	uzoučký(100) uzounký(116) uzoulinký(4)
55	zdravý(9666)「健康な」	zdravoučký(3)
56	zelený(17540)「緑色の」	zeleňoučký(5)
57	žlutý(7906)「黄色の」	žluťoučký(11)

5.2. 音交替

2 節で述べた一般的な指小語の特徴を踏まえつつ、指小形容詞における音交替について見ていく。

表 4　指小形容詞　音交替

音交替	回数
í > i	2
í > ě	1
d > ď	5
n > ň	10
r > ř	1
t > ť	5

最も多く音交替が現れるのは接尾辞 -oučký か -ounký に接続する際であり、-oučký では 23 語が、-ounký では 8 語が音交替を起こした。語幹末の子音は口蓋化し、語幹内の長母音は短母音化する。

í > ě の交替については出現回数は 1 語の形容詞のみ（bílý「白い」> běloučký、bělounký）である。

子音についても同様に 3.1 の表 1 と比較する。d > ď については、mladý「若い」> mlaďoučký のように -ou- タイプの接尾辞（5.3 でも述べるが生産性も高い接尾辞である）に接続すると音交替が発生するのではないだろうか。

また、指小形容詞における n / ň の音交替が、指小名詞の場合とは逆の方向性への変化であることが見て取れる。これは、後続する接尾辞の環境に左右されたことによって生まれた差異と思われる。例えば後続する指小接尾辞が指小名詞の中では大変生産性の高い -ek の場合を考えると、語幹末が ň に接続する際は通常 ň > n へと交替（すなわち -ň > -nek）するのが自然である。しかし、指小形容詞の場合、例えば -oučký, -ounký などの接尾辞へ接続する際には逆に n > ň (-ňoučký, -ňounký) に交替している。

r > ř については指小名詞・指小形容詞ともに共通に現れる音交替である。

最後に、t > ť の交替についてであるが、指小名詞の場合、例えば語幹末が kabát「コート」のように -t で終わり、接尾辞 -ek が接続しても kabátek となり、口蓋化することはない。しかし、指小形容詞の場合は、例えば接尾辞 -oučký に接続する際は krátký「短い」> kraťoučký のように口蓋化が起きている。

5.3.　形式的特徴

ここでは接尾辞や型、比較級表現など、指小形容詞の形式的特徴について述べる。まず出現した接尾辞を以下の表に出現回数順にまとめた。また、検索結果では第一次接尾辞、第二次接尾辞両方が出現したため、段階に応じて表を二段に分けた。

表 5　指小接尾辞

段階	接尾辞	出現回数
第一次接尾辞	-ičký	4116
	-oučký	1442
	-ounký	1228
	-inky	933
	-ýnký	2
第二次接尾辞	-inkatý	166
	-oulinký	31
	-ilinký	16
	-ilinkatý	14
	-ičkatý	13

上記の表と比べると明らかだが、表 2 で示したチェコ語における指小接尾辞の中で今回の調査では出現しなかったのは -ouninký, -ičičký, -iličký,- ininký の 4 種類である。一方で表 2 にはなかったが、-ilinkatý は頻度及び形式的に見て第二次接尾辞として新たに項目を設けるのがふさわしく思われたので、追加した。出現回数は合計では第一次接尾辞の方が第二次接尾時よりも圧倒的に上回る結果となった。最も頻度が高く出現した指小形容詞は、接尾辞 -ičkatý によって派生された maličkatý であった（4116 回中 1988 回出現）。

指小形容詞の比較級表現は出現しなかった。比較級はしばしば婉曲表現のように用いられることがあるが（例：starší muž「年配の男性」、větší žena「（大きな）恰幅のいい女性」）、もし指小接尾辞が強意や婉曲表現、場を和らげるために用いられているとしたら、指小化した時点でその機能は充分であり、更に比較級を用いる必要がないため、基本的に原級のまま用いられたのではないかと考えられる。ただし、直接何かを「比較」する際には、指小形容詞ではなく無標の形容詞が用いられているものと推察される。

また、出現した形容詞の元の形容詞について、naivní を除き、圧倒的に硬変化型（-ý 型の形容詞）からの派生が大部分を占めた。

5.4.　意味論的特徴

ここでは、どのような形容詞を基礎として指小形容詞が派生されるか、意味論的側面について考察する。

今回出現した指小形容詞の意味記述について、チェコ語の一般的な辞書 Havránek et al, ed., (1989) で確認できたものの中では、主として「velmi（大変）＋該当の形容詞」という形式で語彙について記述されているものが多く、次に「mile（親愛な）

＋形容詞」「pěkně（かわいらしい）＋形容詞」などと記述されていた。Dressler and Barbaresi(1994) 及び Štícha(1978) らの記述を併せて考えると、指小名詞では「子供」「小さい」「情動性」といった三つが中心的な機能であった[5]。今回の形態素検索で得たコーパスの文例を見ると、指小形容詞においても、「子供中心」の例、「小さい」あるいは「情動性」のどちらかの機能が働いたもの、そして単に元々の意味の強調がなされていた場合などが多々見受けられた。

(3)

Musíš	*být*	*zdravoučká*	*a*	*hodně,*
must. IMPF. 2SG.	be	well-DIM. SG. F. NOM.	and	very
hodně	*silná.*			
very	strong. SG. F. NOM.			

「健康で、とてもとても丈夫でいなさいよ。」

(4)

Zdánlivě	*na*	*dosah*	*ruky*	*byly*	
seemingly	within	reach. M. SG. ACC.	arm. F. SG. GEN.	were	
malé	*světlounké*	*a*	*měkké*	*větvičky*	
small. PL. F. NOM.	light. DIM. PL. F. NOM.	and	soft. PL. F. NOM.	branche. DIM. F. PL.	
starých	*vysokých*	*smrků .*			
old. F. PL. GEN.	tall. F. PL. GEN.	spruce. M. PL. GEN.			

「古く背の高いエゾマツの木の小ぶりで明るめの色をした
柔らかい春の小枝が手の届きそうなところにあった。」

(5)

Ericksonová	*mi*	*přinese*	*miloučké*	*pivo*
Ms. Erickson	me	bring. PFV. PRS. 3SG.	lovely. DIM. N. SG. ACC.	beer. N. SG. ACC.

「エリクソン夫人は私に大好きなビールを持ってきてくれる。」

(6)

Dům	*je*	*maličký*	-	*všeho*	*všudy*
house. M. SG. NOM.	is	small. DIM. SG. NOM.		all	all ways
jen	*přízemí.*				
only	ground floor. N. SG. NOM.				

「家が小さい。家がどこでも一階しかなかった。」

例文 (3) は母親から子供へ話しかける場面である。zdravoučký「健康な」に、話者から子供への「愛情」「親しみ」など「子供中心」的な意味合いが込められた表現と取れる。後に続くもう一つの形容詞 silný「丈夫な」については指小化されていないが、それはこの形容詞に対して hodně「とても」が連続して使用されることで zdravoučký に含ませた指小性と類似した効果が発揮されているからではないだろうかと推察する。例文 (4) は文脈的にも「子供」とは関係がなく、světlý「明るい」の「程度を軽めにする」ことを目的に指小形容詞が用いられていることがわかる。例文 (5) は「ビール」への肯定的な感情が働いていると想像される。例文 (6) は、家が複数階を持つのではなく平屋で「小規模」であることを強調したいという話者の判断から「小さい」に指小接尾辞を用いたと考えられる。

今回得られた指小形容詞 96 語について、派生の元となる形容詞の種類から意味論的に何らかの傾向を見ることができるのではないだろうか。ここで、形容詞の意味について通言語的な概念から分類を試みる。Givón(2001: 82-83) で用いられている、典型的といえる形容詞（原型形容詞）とそれに準じる形容詞（準原型形容詞）の分類を参考に、今回抽出した指小形容詞を振り分けた表を作成した。ただし、以下の表において各項目に振った番号・記号、日本語訳は便宜的に筆者が行ったものである。

表 6　原型的形容詞分類　指小形容詞

	分類	形容詞 語彙
I	サイズ Size	
	一般的なサイズ General size	malý mrňavý lehký drobný
	水平線上の広がり Horizontal extension	blízký úzký celý
	厚さ Thickness	hubený tenký tlustý štíhlý útlý řídký
	垂直方向の広がり Vertical extension	
	垂直方向の高さ Vertical elevation	nízký
	長さ Length	krátký
II	色 Color	
	彩度 Brightness	světlý

	色彩 Color	bílý bledý červený růžový zelený žlutý
Ⅲ	聴覚的質 Auditory qualities	
	大きさ Loudness	tichý slabý
	絶対音感 Absolute pitch	
	相対音感 Relative pitch	
	ハーモニー Harmony	
	メロディ Melody	
Ⅳ	形 Shapes	
	一次元 One-dimention	
	二次元 Two-dimention	kulatý
	三次元 Three-dimention	
Ⅴ	味覚 Taste	
		sladký
Ⅵ	触覚　Tactile	
	生地　Texture	hebký hladký
	抵抗感　Resistence	jemný měkký
	鋭さ　Pointedness	

表 7　準原型形容詞分類

	分類	形容詞 語彙
Ⅶ	評価　Evaluative	
		blbý hezký hloupý hodný chabý chudý jediný jednoduchý křehký milý mírný naivní nevinný něžný

		pěkný pilný pitomý prostý samotný skromný ubohý
Ⅷ	一時的なステータス　Transitory states	
	精神的・内面的な特質　Mental internal	
	外的な行動　External activity	
	外的な状態　External condition	čistý
	動作のスピード　Speed of motion	pomalý
	温度　Temperature	teplý
Ⅸ	生活に関するステータス　States of living	
	年齢　Age	mladý starý
	生死　Life	
	健康　Health	zdravý
	仕事 Business	

表 6,7 から明らかなように、指小形容詞の派生元となった形容詞は圧倒的に視覚的な具体性を伴った「小さい」あるいは「評価」に関するものが多かった。

(7)

Julia *není* *žádná* *<u>neviňoučká</u>*
Julia is not. 3SG. COP. no. F. SG. NOM. innocent. DIM. F. SG. NOM.
oběť.
victim. F. SG. NOM.
「ユリアは<u>無実の</u>犠牲者なんかじゃない。」

例文 (7) は話者の Julia に対する否定的感情から nevinný「無実の」が指小化して neviňoučký が用いられたと思われる。もし není および žádný と共に用いられなければ neviňoučký は肯定的意味合いを帯びていただろうが、否定表現と共に用いられたため、転じて反対に「軽蔑」や「嫌悪」の意味合いを持つこととなった。

物理的機能の側面から見ると、「聴覚」や「味覚」など姿形のないものよりも、視覚的にサイズの分類に語彙が集中していることから、指小名詞が抽象的なものよりも具体的なものから多く派生されると述べている Čechová(2003: 126) の記述と共通の傾向があるように思われる。

(8)

Na	*první*	*pohled*	*vypadal*	*jako*
at	first	look. M. SG. ACC.	seem. IMPF. PAST. 3SG.	like. CONJN.

hubeňoučký	*mladíček*
thin. DIM. M. SG. ADJ.	boy. DIM. M. SG. NOM.

「初めて見た時彼は痩せっぽちの若者に見えた。」

例文 (8) は形容詞 hubený「痩せた」の指小形 hubeňoučký が用いられている例である。これは「痩せている」という視覚的な側面について意味の指小化が起きていると考えられている。

5.5. 語用論的傾向

続いて、指小形容詞が用いられる場面や登場するテキストのジャンルなどについて記述する。今回抽出された指小形容詞の多くは、公的な文書よりも小説や往復書簡などといった日常生活に密接に関わっているテキストに多く出現していたように思われる。以下に例を挙げる。

(9)

Vzpomněl	*si*	*na*	*její*	*vlasy*
remember. PFV. PAST. 3SG.	REFL.	at	her	hair. F. PL. ACC.

jako	*slaďoučký*	*med.*
like. CONJN.	sweet. DIM. M. SG. NOM.	honey. M. SG. NOM.

「彼は甘ったるい蜂蜜のような彼女の髪を思い出した。」

(10) a

To	*jsou*	*krásný*	*tlusťoučký*
It	are	lovely. F. PL.	fat. DIM. F. PL. NOM.

panenky !
girl. F. PL. NOM.

「なんてかわいらしい丸々としたお嬢さんたちなんだ！」

(11)

Po	*chvilce*	*však*	*Babí*
after	moment. DIM. F. SG. LOC.	however	Babí

zaslechla	*tenounké*	*hlásky*
hear. PFV. PAST. F. 3SG.	thin. DIM. M. PL. ACC.	sound. DIM. M. PL. ACC.

「しかしちょっと後でバビーはか細い話し声を聞いた。」

コーパスの出典情報によれば、ここで挙げた例文 (9)~(11) は文学作品のテキストである。2 節でも述べたように指小辞がそもそも口語的性質を帯びていることを考えると、公的なテキスト（例えば法律の文章や裁判所からの令状など）に出るよりも、自然の傾向と考えることができるだろう。

また、指小形容詞とともに指小名詞も同時に用いられている文章が目立ったので例を挙げておく。

(12)

Pomaloučkým *pramínkem* *začaly*
slow. DIM. SG. INS. spring. DIM. M. SG. INS. start. PFV. PAST. F. 3PL.
proudit *myšlenky.*
stream. IMPF. INF. thought. F. PL. NOM.
「小さな泉にゆっくりと湧き上がるように思考が流れ始めた。」

(13)

Šli *jsme* *zpátky* *s*
come. IMPF. PAST. M. 1PL. were back with
milounkým *ptáčkem* *s*
dear. DIM. M. SG. INS. bird. DIM. M. SG. INS. with
broskvovou *tvářičkou* *v* *klícce.*
peach. F. SG. INS. cheek. DIM. F. SG. INS. in cage. F. SG. LOC.
「ケージに入った桃色のほっぺたの愛らしい小鳥を連れて
私達は戻ってきた。」

文例 (12) および (13) どちらでも「指小形容詞 + 指小名詞」の組み合わせが出現している。文例 (12) では物理的「小ささ」を表す機能が働いており、(13) では話者の情動性が現れている。また、これまでに例として挙げてきた例文においても、(4) světlounká větvička「明るめの色をした小枝」や (8) hubenoučký mladíček「痩せっぽちの若者」、tenounký hlásek「か細い声」も同様に指小形容詞と指小名詞の組み合わせで用いられている。このように、コーパスの文例を見る限り、指小名詞が多く出現するテキストであれば、同一のテキスト内に指小形容詞も出現しやすい傾向にあるものと思われる。テキストのジャンル傾向として、指小形容詞に限らず、文学作品や詩など、まず指小語が登場しやすいものであることが前提条件となるだろう。複数の語彙カテゴリーにまたがって指小語を使用すると、情動的な文体になり、音韻的な面から見てもリズムが形成しやすく、書き手として好む者もいるのではないだろうかと筆者

は考える。

実際に指小形容詞が出現しているテキストを見ると、特に「子供中心」に指小形容詞が圧倒的に用いられているという印象はさほど濃くない。むしろ、上掲の例文、例えば (4)~(7) からも明らかであるが、必ずしも子供と関係があるとは思われない場面でも使用されている場合が数多く見受けられた。これは Dressler and Barbaresi (1994:173) の child-centerd speech situation とは必ずしも合致しない例である。

指小形容詞が文体レベルで与える影響について、今回 SYN2010 にて抽出した例文及び辞書の記述を合わせて考えると、文脈に応じて「強意」「親愛」「婉曲」など分類することができそうである。

6. さいごに

以上、チェコ語の指小形容詞について見てきた。コーパスの形態素検索により指小形容詞 96 語のサンプルを得ることができたのは大きな収穫である。指小形容詞は派生の過程において指小名詞の場合と同様に音交替を起こしており、特に短母音化、口蓋化の傾向があると言えるだろう。形容詞における指小接尾辞も指小名詞の場合と同じように段階的な派生体系が存在している。また、指小接尾辞によっては出現回数に大きな差が現れる結果となった。これは一部の指小辞に使用が集中していることが考えられる。意味論的な観点から見ると、指小形容詞は単に幼児語や子供向けの語彙として見なすのではなく、「子供」「小さい」「情動性」のどの意味合いも中核に持つものと捉えるべきであろう。指小形容詞が用いられる場面について、コーパスの文例では、公的な性格を持つテキストよりも文学作品など、日常生活や子供向けのテキストに表れる傾向があると言えるだろう。また、同一のテキストに指小形容詞と指小名詞が同時に出現する例が多数見られた。

今後は指小名詞でも指摘されている、ポライトネスの用法としての指小形容詞の使用や、指小形容詞を用いる発話者の属性（性別、年齢など）に関する視点からもさらに論考を重ねる必要があるだろう。また、名詞、形容詞以外の語彙カテゴリーにおける指小語の語彙についても調査を行い、それらを比較しつつ、複数の語彙カテゴリーから指小語の包括的な記述を試みていく必要性が感じられる。

【註】

[1] Nieuwenhuis(1985) は、どの語彙カテゴリーから指小語を形成することができるかについて、階層を見出した。著者はヨーロッパの諸言語を中心とした 30 言語において指小語について調査を行った。調査結果から著者は、指小語を形成する語彙カテゴリーは階層的に並べることができ、その階層のトップには指小語を形成しやすい傾向にある語彙カテ

ゴリーが来て、階層が下がるほどに、その語彙カテゴリーが指小語を形成する可能性が下がる、という「指小語階層」という概念を提案した：人名、普通名詞＞形容詞＞動詞、副詞＞数詞、間投詞＞ (人称) 代名詞＞前置詞＞指示代名詞

[2] 例えば dům「家」> domek から更に拡張した接尾辞のひとつ、-eček を用いて domeček という語彙を派生することが出来る。-eček の他にも -iček、女性名詞に付くのならば -ečka や -ička など、拡張した接尾時には様々なヴァリエーションがある。

[3] 語彙化。チェコ語における指小名詞の語彙化の分類については Štícha (1978) に詳しい。語彙化の過程に応じて 5 種類に下位分類がなされている。また、本稿では指小化の段階を 2 つに分け、それぞれ第一次接尾辞、第二次接尾辞と呼ぶこととする。例えば dům「家」> domek > domeček の場合、-ek が第一次接尾辞、-eček が第二次接尾辞である。詳しくは 3.1 を参照。また、本稿では、指小名詞に限らず、指小語において、第一次接尾辞によって形成された指小語を第一次形、第二次接尾辞に形成された指小名詞を第二次形と分けて呼ぶこととする。

[4] 例：dár「贈り物、プレゼント」> dárek「（比較的小さな）プレゼント」> dáreček「（さらに小サイズの）プレゼント」, koš「かご」> košík「（小かご）」> košíček「（さらに小さな）かご」など。ここでは訳にサイズの度合いを反映させることを試みたが、チェコ語における指小語と全く同じ機能をもつ文法範疇が日本語には存在しないため、日本語に対応させた訳をすることは、どの指小語についても困難な場合が多い。

[5] Dressler(1994: 173) は、比較的幼い子供が a) 話し手、b) 聞き手、c) 対話の参加者と見なされているか、あるいはその場に不在でも指示対象である場合、指小語が積極的に用いられる傾向にあると述べており、これを child-centered speech situation と名づけている。

【参考文献】

Bartáková, J. (1994) Adjektíva so zväčšenou mierou vlastnosti v slovenčine a češtine. In: *SPFFBU. Rada Jazykovedna. Vol. A42. No. 1.* pp.75-88 Brno: Filozofická fakulta Masarykovy univerzity.

Čechová, M. (2003) *Současná česká stylistika.* Praha: ISV.

Čmejrková, S. (2011) *Mluvená čeština: Hledání funkčního rozpětí.* Praha: Academia.

Dressler, W. U. and Barbaresi, L. M. (1994) *Morphopragmatics. Diminutives and Intensifiers in Italian, German and Other Languages.* Berlin; New York: Mouton de Gruyter.

Givón, T. (2001) *Syntax: An Introduction.* Amsterdam; Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.

Havránek, B. et al. (ed.) (1989) *Slovník spisovného jazyka českého 1-8. 2. vyd.* Praha: Academia.

亀井孝・河野六郎・千野栄一編 (1996)『言語学大辞典 第 6 巻　術語編』三省堂

Karlík, P. et al. (1995) *Příruční mluvnice češtiny.* Praha: Lidové noviny.

Klímová, J. (2001) Zdrobněliny v korpusu. In: *Čeština doma a ve světě 9* pp.6-8 Praha: ÚČJTK FF UK.

Nieuwenhuis, P. (1985) *Diminutive.* London: BLDSS.

Štícha, F. (1978) Substantiva deminutivní formy s lexikalizovaným významem. *Naše řeč Vol.61 No.1* pp. 113-127 Praha: ÚJČ.

【データベース】

SYN2010: Český národní korpus ÚČNK <https://www.korpus.cz/> (2014.9.28 最終アクセス)
Morfio Český národní korpus ÚČNK < https://morfio.korpus.cz/> (2014.9.28 最終アクセス)

【略号一覧】

1	一人称	N	中性
3	三人称	M	男性
ACC	対格	NOM	主格
CONJN	接続詞	PAST	過去
DIM	指小化	PFV	完了体
F	女性	PL	複数
GEN	生格	PRN	代名詞
IMP	命令	PRS	現在
IMPF	不完了体	REFL	再帰
INF	不定詞	SG	単数
INS	造格	SUPER	最上級
LOC	前置格		

A Study of Adjectival Diminutives in Czech

Saeko MUTO

The purpose of this study is to investigate adjective diminutives in Czech language and to provide various examples of diminutive data from Czech corpora, *SYN2010: Český národní korpus*. In Czech, diminutive suffixes of nouns are generally marked as an exceedingly productive way of word formation. However, little is surveyed in other word classes, such as adjectives, verbs, and adverbs, in spite of its existence in the colloquial style. The current study thus aims to explain in depth the usage of adjective diminutives in Czech. First, I collected adjective diminutive suffixes from a selected literature, including languages that are profoundly related to the Czech language, for example, Slovakian, and I systematized suffixes of Czech. Second, I extracted diminutive words with these suffixes, using *Morfio*, a program of *SYN2010*, which provides a complex morpheme search system. Third, they were analyzed phonetically, semantically and pragmatically. From this analysis, 96 samples of adjective diminutives were found. In the process of deriving adjective diminutives, phonological changes occurred as were in the case of noun diminutives. Particularly, numerous shortening of vowels and palatalization of consonants were found. Semantically, 'smallness', 'emotion' and 'child' constituted core elements of adjective diminutives. Whether adjective diminutives are used or not, and their meanings depended on speakers/writes. Yet in general, adjective diminutives, as with noun diminutives, were more likely used in literary works or other colloquial style texts than in formal texts. This study suggests that diminutives of various categories are likely to appear in the same texts simultaneously. Further research is needed to clarify the whole diminutive system, including diminutives of various word categories.